

陸自オスプレイ木更津駐屯地暫定配備に際しての 漁業への影響の有無について

- 日本水産資源保護協会資料によると、一般的に、「威嚇レベル(魚が驚いて深海に潜るか、音源から遠ざかる反応を示す音圧レベル)」は140デシベル～160デシベル、これに比べて、「誘致レベル(魚にとって快適な音の強さであり、興味のある音であれば音源方向へ寄ってくる音圧レベル)」は110デシベル～130デシベルとされています。
- 2016(平成28)年11月に行った米軍MV-22オスプレイの佐賀空港付近における展示飛行の際に、佐賀空港南側場周経路付近で水中音を測定したところ、オスプレイの音圧レベルは、最大でも102デシベルであり、「誘致レベル」(110～130デシベル)には届いておりませんでした。
- また、防衛省が過去に三沢飛行場等で行った航空機騒音が魚類に与える影響調査を踏まえても、オスプレイ及び大型ヘリコプター(CH-47)等の飛行音が漁業に影響を与えると断定することは困難だと考えています。
 - ※ なお、有明海における投網によるコハダ漁への影響については、2016(平成28)年の調査に加え、現在、追加調査を行っております。
- いずれにしても、陸自オスプレイの暫定配備に当たっては、地元の皆様の御理解と御協力を得られるよう、引き続き、丁寧な説明に努めるとともに、騒音軽減等の観点から、可能な限り地元の皆様の御意見を踏まえつつ、運用してまいります。
- 他方、万一にも自衛隊機の運用によって、漁業事業者等の方々に対して経営上の損失を与えた場合には、関係法令に基づいて、防衛省が責任を持ってその損失を補償するなど、適切な措置を講じてまいりたいと考えております。